

一般公開(つくば)報告

今年度も科学技術週間の恒例となっている筑波農林研究団地の一般公開が4月14日(水)に一斉に開催されました。昨今のBSE・高病原性鳥インフルエンザの発生等畜産をとりまく状況の変化や食に対する安全・安心が消費者の大きな関心となっている中で、当研究所は「行って探ろう!畜産の世界」をテーマとし、来場者におおいに畜産にふれて楽しみ、理解してもらうことを目的に公開内容を企画しました。

当日、本会場入り口前に設けられた業務科主催の「かわいい動物たちとのふれあいコーナー」では、子ブタ、子ウシ、ヒツジの親子と柵の中で実際にふれあうことができ、また、見たこともない巨大な「大型農機具の展示」に小さな子供たちは大喜び。

さらに本会場に入ると各研究部等による①最近の

研究成果紹介、②ハチミツ搾りの実演、③当研究所開発のドリンクヨーグルトの試飲、④ニワトリのふ化実演等の展示・催しの中で子供、女性に根強い人気のコーナーが相変わらず大盛況でした。

また、一歩会場の外に出ると所内巡回車により、普段目にするのできない体細胞クローン牛、メタン発酵研究施設等が見学でき、来場者にとっても有意義な時間が過ごせたようです。

当日、天候は朝から曇天であり、終了1時間前には雨も降り始めましたが、結果的に来場者数は1,828名と予想をはるかに上回る人数となり、今年度も多くの一般の方々に当研究所が紹介でき、研究成果が理解いただけた1日になったと考えています。(企画調整部情報資料第1課 岡田明子)



大人気の「ドリンクヨーグルト・ハーブ牛乳」の試飲コーナー



研究施設の公開(クローン牛)コーナーで大喜びの保育園児たち